

## ディスカッション成果 平成28年度 ドミニカ共和国派遣

### 1. ディスカッションの概要

日付	9月21日9時30分から18時頃まで、22日9時から17時頃まで		
場所	サントドミンゴ-サントドミンゴ自治大学 (UASD)		
プログラム名			
テーマ			
参加者	日本青年14名、外国青年22名		
スケジュール	9月21日	9:30-10:00	開会式
		10:00-10:30	アイスブレイキング
		10:30-11:00	お互いの国について紹介(プレゼンテーション)
		11:00-12:20	ディスカッション第1部 社会問題について
		12:30-14:00	昼食
		14:00-15:00	キャンパスツアー(剣道場を見学)
		15:15-16:20	ディスカッション第2部 教育又は文化について
		16:30-17:00	休憩
		17:00-18:00	UASD学生とのメレンゲ・パチャータ交流
	9月22日	9:00-10:45	ディスカッション第3部 社会問題について
		10:45-11:15	休憩
		11:15-12:00	ディスカッション第4部 考察・発表準備
		12:15-13:00	UASD学長表敬
		13:00-14:30	昼食
		14:45-16:00	合同セッション(成果発表)
		16:00-16:20	閉会式
		16:30-17:30	日本青年プレゼンテーション(阿波踊り)

## 2. 分科会の概要（社会問題）

テーマ	Social problems/issues and civic leadership
参加者	日本青年14名、外国青年22名（全員参加）
トピック	社会問題、固定観念、社会問題への住民参加及び市民のかかわりについて
成果	<p><b>1. ドミニカ共和国での現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・若年妊娠が大きな問題になっている。その原因としてはキリスト教が中絶を禁止しているということ、十分な教育を受けていないということがあげられる。さらに、子供が子供を育てるという状況もある。</li><li>・教育格差や経済格差などの様々な格差が存在する。</li><li>・英語教育に力を入れていて、お金がある家庭は子供を私立のバイリンガルスクールに通わせ、お金がない家庭でも英語の塾に通わせる。</li><li>・サントドミンゴ自治大学は公立なので授業料がとても安く、奨学金を得ることもできる。それでも交通費や食費などを払うことができず学校に通うのが難しい学生もいる。そのため仕事をしながら学校に通う学生が多い。</li></ul> <p><b>2. 日本での現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自殺者が多い。いじめや鬱など、精神的に追い詰められてしまうことが原因である。</li><li>・保育園や幼稚園が足りず、母親が仕事に復帰できない、子供が遊ぶ場や友達を作る場を得ることができないという問題がある。無認可の保育園などもあるが、保育士の教育が十分でなく、事故などが起こってしまう。</li><li>・地震や津波など震災による被害を受けることがしばしばある。復興への支援は十分だとは言えない。</li></ul> <p><b>3. 上記現状をふまえた上での意見交換の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ドミニカ共和国は教育にもっと力を入れる必要がある。教育を重要視するのでメディーナ大統領は支持されている。</li><li>・環境問題に対する取り組みとして大学を卒業する際に植樹する習慣があり、植えないと卒業できない、枯らしてしまうとお金を払わなければならないという決まりがある。私たちが参加できる取り組みとして良いものである。</li></ul> <p><b>4. 発表の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保育園、幼稚園の問題。日本では施設が狭いうえに保育士が足りていない。ドミニカ共和国では保育の質が低い。</li><li>・日本もドミニカ共和国も移民を受け入れる立場にあるため、移民に対する考え方について発表した。</li><li>・日本とドミニカ共和国の大学における違いについて。</li></ul>

## 社会問題グループ感想

岩崎 暖

今回、社会問題についてサント・ドミンゴ自治大学の大学生たちとディスカッションして、ドミニカ共和国の大学生が抱えている問題、ドミニカ共和国の今後の課題に対する彼らの意見を聞くことができた。その中で感じたことは、彼らは日本の大学生よりもはるかに政治や国の現状に興味があり、多くのことを考えているということである。彼らに大統領について尋ねると、メディーナ大統領は教育に力を入れているから支持していると答えた。そして、私たちがあげた日本の問題点に対して政府はどのような対応をしているのかと質問してきた。そういった質問をされると思っていなかったため答えることができず後悔したが、このように多くの若者が政治に興味を持っていることこそ、ドミニカ共和国が今まさに発展を遂げている理由の一つなのかもしれないと思った。

このディスカッションプログラムを通して最も印象に残ったことは、同じグループになった一人の学生との会話である。一日目のディスカッション中、彼女はほとんど何も発言をしなかった。グループの他のメンバーで彼女に意見を聞いたのだが、結局ほとんど話すことがないまま一日目のプログラムが終了してしまった。私は、彼女は英語が得意ではないからディスカッションについていけず、発言ができないのかと思っていた。今まで私が出会ったドミニカ共和国人は話すことが好きで、同じグループにいた他のドミニカ共和国人も例にもれず話すことが好きだったため話すことが苦手なドミニカ共和国人がいると思わなかった。そして、その夜の夕食会で彼女

が偶然隣に座ったので話しかけてみると、予想に反して彼女は流ちょうに英語を話した。私は驚いてなぜディスカッションの時は発言しなかったのか聞くと、自分はシャイで、頑張って話そうとしても誰も話を聞いてくれなかったと彼女は言った。私はその時、彼女はただしゃべるまでに時間がかかる上に声が小さいだけだったということに初めて気付いた。話を聞いていなかったことについて謝ると、彼女も私たちが無視していたのではなく、ただ聞こえていなかっただけだと分かり、安心したのかその後は好きな日本のアニメの話などをしてくれ、仲良くなることができた。

そして次の日のディスカッションで、彼女は別人のようにしっかりとした口調で自分の意見を言うようになった。彼女が積極的にディスカッションに参加するようになったおかげでグループの雰囲気よくなった上に、彼女自身も楽しそうにしている私も嬉しかった。今回のディスカッションプログラムを通して、お互いの国の事情を知ることができただけでなく、最初から決めつけないでしっかり相手に向き合い、話を聞くこと、相手を理解しようとする姿勢が大切であるということ、こちらが先に向き合う姿勢を見せれば相手もきちんと答えてくれること、どうすればお互いに気持ちよくディスカッションをすることができるのかなどディスカッションを行う上で大切なこと、異なる文化を持った人と交流する上で気を付けなければならないことを学ぶことができ、今後の国際交流の場面で活かせる経験となった。

## 2. 分科会の概要（教育）

テーマ	教育
参加者	日本青年7名、外国青年10名
トピック	大学生活、入試、奨学金、学部など
成果	

  

<p><b>1. ドミニカ共和国での現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ UASD（サント・ドミンゴ自治大学）の学費は年間40ドル。</li><li>・ 成績が優秀な生徒には国から奨学金が支給される。</li><li>・ 交通費や生活費を稼ぐために仕事をしながら通う学生も数多くいる。</li><li>・ 人気のある学部は薬学、教育、エンジニアなど。</li><li>・ UASDを卒業するには13科目のテストを受けることが求められる。入学することはそれほど困難ではないが、卒業はかなり難しい。</li></ul> <p><b>2. 日本での現状</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学費は私立と公立で異なるが、私立で年間100万円ほど。</li><li>・ 奨学金制度は普及しているがその多くがローンであり、返済義務がある（利息が加算されるタイプもある）。</li><li>・ 人気のある学部は法学、医学、理学など。</li><li>・ 国立大に入学するにはセンターテストの他にその大学独自のテストを受ける必要がある。</li></ul> <p><b>3. 上記現状をふまえた上での意見交換の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ もっと多くの学生が大学に通えるように国が支援を増やすべきだ。</li><li>・ 両国共通して、医学系の学部の人気は高い。</li></ul> <p><b>4. 発表の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2か国の現状を示しながら項目ごとに発表した。</li><li>・ 日本の現状は日本青年が、ドミニカ共和国の現状は現地学生が発表した。</li><li>・ 奨学金の項目では、発表者が二つの奨学金を利用していることを盛り込んだ。</li></ul>
---

## ドミニカ共和国派遣団 サントドミンゴ自治大学ディスカッション 教育グループ

宮原 凜太郎

ドミニカ共和国派遣団では、このディスカッションプログラムに参加するにあたり、自主研修期間に主に二つの課題に取り組んだ。一つは現地でのディスカッションの中で話題となりそうなトピックについて団員一人一人が調べて、その結果を全員で共有することだ。事前研修のときに前年度参加青年から「現地の学生は本当に日本の文化やシステム、日本人の考え方について興味を持っていて、たくさんの質問をしてくるから答えられる準備をしておくべきだ」というアドバイスをいただいた。そのため団員間で相談して、相手の質問に答えるために、まずは私たち団員自身が日本の教育について知ろう、という結論に達した。調べてきた結果をもとにディスカッションの前日に教育グループ全員で集まり、それまでのドミニカ共和国滞在期間中に感じた学校や現地の学生生活についての疑問を話し合った。この結果私たちは自信を持ってディスカッションに臨むことができ、現地学生からの質問にも戸惑うことなく答えることができた。また現地の教育についてたくさんの疑問をぶつけ、中身の濃いディスカッションになった。

もう一つは居住地区が近い団員同士で集まり、ディスカッショントレーニングを行った。ほとんどの団員が英語でのディスカッションを経験したことがなく不安があったが、このトレーニングの成果もあり、本番では

すべての団員が積極的に議論に参加することができた。

ディスカッション当日は教育グループの中でさらに小さなグループに分かれて議論を行った。テーマはグループごとに自由に決めることができた。あるグループでは日本とドミニカ共和国での教育システムの違いについて議論していた。日本では奨学金は返済義務があるものが多いが、ドミニカ共和国では成績優秀者には国から給付されるなど2か国の間でたくさんの相違点を発見することができた。他にも、日本の私立大学だと学費が100万円ほど年間かかるが、サントドミンゴ自治大学だと年間40ドルほどだという大きな違いに私たちと現地学生は驚いた。

このプログラムを終えて感じたことは、2か国の参加青年とも相手国の教育に大きな関心があったということだ。なかなか自分の国以外の教育システムについて知る機会がないので、この議論を通じてたくさんの学びを得ることができた。地球の反対側にあるドミニカ共和国だが、より良い教育を受けたいという思いや、教育環境を整えたいという思いは私たち日本人と同じであった。たった二日間のディスカッションではあったが、その日数以上に中身の濃い議論を展開することができたと感じている。